

米軍三沢基地F16戦闘機による 燃料タンク投棄事故



11月30日夕方、深浦字苗代沢の深浦町歴史民俗資料館・美術館付近の町有地に、米軍三沢基地所属のF16戦闘機が燃料タンクを上空から投棄しました。
本ページでは、投棄事故発生から約2週間に渡る経過について報告します。

(12月1日:東奥日報社提供)

11月30日(火)

・F16は飛行中に油圧低下の異常を示す警報が出たため、パイロットが飛行困難と判断。手順に基づき燃料タンク2個を深浦町に投棄し、青森空港に緊急着陸。その燃料タンク1つが深浦町歴史民俗資料館・美術館の南方にある国道101号と道路沿いの町有地で破損、散乱した状態で見つかった。

12月1日(水)

・東北防衛局の市川道夫局長が役場を訪れ、吉田町長らに三沢基地からの情報として事故について説明。
・現場を調べた鯉ヶ沢警察署は30日夜から1日早朝まで安全確保のため国道を片側通行とした。
・深浦消防署は流出した燃料を回収。
・午後に米軍三沢基地関係者が、深浦町中心部で見つかった落下物は投棄された燃料タンクの一つと確認し、回収した。燃料が染み込んだ土壌のサンプルを採取するなどの作業を3時間近くに渡り行った。
・午後2〜3時頃に三沢基地司令官のティモシー・マフィー大佐、鬼木誠防衛副大臣がそれぞれ役場を訪れ、吉田町長に陳謝。その後、三村申吾青森県知事に説明するために県庁を訪れた。
・岸防衛相が米軍に飛行停止を要請した。

12月2日(木)

・午後2時ころ、不明となっていた残る1個の燃料タンクが、1個目が見つかった地点から南東約1キロ先にある深浦字大館の山林内で、捜索中の三沢基地隊員が見つけ、夕方までに回収。
・米軍は岸防衛相からの飛行停止要請に従わず、三沢基地で運用を再開した。

12月3日(金)

・吉田町長は市川防衛局長に対し、防衛省がF16の安全が確認されるまで飛行しないよう米側に要請した内容の徹底を強く求めた。
・三村知事は防衛省を訪れ、岸防衛相に対して米軍に飛行中止を申し入れることなどを要請した。

12月6日(月)

・三沢基地関係者が、初めに見つかった町中心部の国道101号沿いで、融雪溝に流れ込んだジェット燃料の除去作業を行ったほか、2個目のタンクを投棄した民有林で油分が溝内に残存しているとして再度の作業実施を要請した。民有林では6本の樹木が真つ二つに折れるなどの被害を受けたことを確認した。

12月9日(木)

・三沢基地関係者は、1個目のタンクが見つかった町中心部の国道101号沿いで融雪溝に流出したジェット燃料の除去作業を再開した。現場を確認した町側は要望通り除去されたと判断し、作業を終了した。
・米軍三沢基地のF16戦闘機が深浦町内に燃料タンクを投棄した際、発見現場で交通誘導を行ったみちのく銀行深浦支店の田中幸治さんと、5区自治会長の葛西清さんに感謝状が贈られた。

12月14日(火)

・市川防衛局長は県庁と役場を訪れ、米軍側が飛行再開の判断に至った経緯と、それに対する防衛省の考え方を説明した。市川防衛局長は「日米間の連携が図れていなかった」と連絡の不十分さを認め、米軍が行っている事故調査の結果について地元と情報共有する機会を設ける意向を示した。



ジェット燃料の除去作業(12月9日)(陸奥新報社提供)



吉田町長が市川防衛局長(右)へ要請書を提出(12月3日)



投棄された燃料タンク(12月1日)(東奥日報社提供)



2個目の燃料タンクを見つけ運ぶ三沢基地の隊員たち(12月2日)(陸奥新報社提供)



交通誘導を行った葛西さん(下段左)と田中さん(下段右)(12月9日)



民有地の樹木が折れているのを確認(12月6日)(陸奥新報社提供)



鬼木防衛副大臣(左)(12月2日)(陸奥新報社提供)